

2月号

いっしん

平成28年(2016年)

第373号

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市

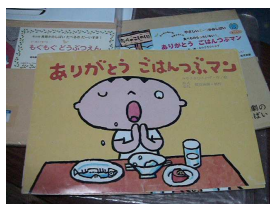
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-622895 / FAX 020-4665-5653

Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

ごみをかぶれ
 ごみをこやしと
 なすならば
 末は花咲き
 実をも結ばなん

甘木親教会
 初代教会長
 安武松太郎師御教

甘木親教会初代教会長安武松太郎大人65年祭 平成28年 2月17日(水)
 加治木教会 布教65年記念大祭 平成28年 5月29日(日)



食物をそまつにしないことを教えてくれる紙芝居でした。



開会より早めに来て、みんなのためにたこ焼きを焼きました。



靴屋のおじさん靴つくり♪

少年少女会 初例会

鏡開き 一月十一日

お正月気分もようやくうすれてきた一月十一日(祝)加治木教会では、少年少女会「鏡開き」が開かれました。

「鏡開き」とは、神様にお供えされたいたお鏡毛子をぜんざいなどにして頂き、神仏に感謝し無病息災などを祈る行事です。

開会時のみ教えは「食物は天地の親神様のお恵みですから、大切し粗末にならないように」というお話でした。

また、紙芝居も二編披露されました。一つめは「もくもくとつぶつえん」二つめは「ありがとうごはんつぶまん」。ちっちゃな子どもたちもシッカリみていてくれました!

「ありがとうごはんつぶまん」では「…地球は僕たちに食べ物をプレゼントしてくれているんだ。そのプレゼントを大切に残さないように食べようね」という、だいたいな言葉でしめくくってあり、みんな感動しました。

ふりつけソングは「お弁当箱の歌」と「靴屋のおじさん」♪♪ みんなで楽しく歌いました。

この日は「食物の大切さ」をたのしみながら勉強させていただきました。

「信心を続け、伝えていく」

青木トミ子氏 (上)

(愛知県 名城教会 在籍)

東海教区「信心の喜びを語る集会」

での発表

平成二十七年七月十二日

青木トミ子氏は、鹿児島県始良市北山の向江家に生まれる。加治木教会前教会長矢野政美大人の布教(昭和二十六年)間もない頃、家族一同入信。トミ子氏の実姉向江ナツ工師(元左屋教会教長)が若い頃、起死回生のおかげを蒙ることをきっかけに、ナツ工師が教師へとお取立していただき後に愛知県にて佐屋教会を設立。移住した家族は佐屋教会教徒として信心を進めた。ナツ工師は高齢と心身不調のため、平成十八年に佐屋教会を閉鎖・解散。トミ子氏夫婦は現在名城教会(教会長河合利男師)在籍教徒として信心を進める。

ただ今ご紹介いただきました名城教会に参拝のおかげを頂いております青木トミ子です。

私は、愛西市(愛知県)から参拝させていただいておりますが、元々は、私の姉が教会長をさせていただいておりました佐屋教会の方で信心の稽古を進めておりました。

しかし、平成十八年に佐屋教会を

急に閉鎖するということになり、私たち家族はもとより、総代の方々は「神様から手を切られた」と信心をやめようとされる方もおられ、信者一同が路頭に迷う中、私たち家族は、一年間は佐屋教会の親教会である鹿児島県の加治木教会に電話やお手紙でお取次を頂いておりました。



青木氏ご夫妻
トミ子氏 宗一氏

その間に、自転車で転んで股関節を骨折したり、緑内障で両目を手術したりと、難儀なことが多すぎて、お金のことを言っではいけません

電話代も高くなるので、日々のお取次を頂くこともできず、徐々にお取次の内容をより分けてさせていただくようになりました。

教祖様は「大きいことも、小さいことも、すべてを大切に」と教えて下さってあるのに、これではおかげを頂けませんよね。

加治木教会の親先生は、以前から佐屋教会に御用にお出で下さってあった河合先生のところ、名城教会に一年に一回でも御大祭にお参りさせていただいて、御本部へ御礼参拝ができるようにと度々電話でお話し下さってありました。

その頃はまだ、杖を突いていてもあまり歩けない状態でしたので、電車に乗って一時間以上もかかる名城教会まではとても参拝することはできないと言いつばかりしていました。

平成十九年十月、私の家の御霊舎を新しくお祀り替えをさせていただくことになり、加治木教会の親先生が「鹿児島からは遠くて行けないから、名城教会長先生に電話でお願いさせていただいたから」とのこと

私からもお電話でお願いさせていただいてお祭りをお仕えしていただきました。

その後、私たちの考え違い思い違いに気付かせていただき、その年の十二月に名城教会へ初めてお引き寄せをいただきました。

電車を乗り継ぎ、バスに乗り換えての道なのですが、乗り換えても座席にもおかけを頂き、バスの中で不安げにしていると、隣に座っている方が親切に名城教会への行き方を教えて下さり、何も心配なく参拝させていただくことができました。

家に帰ってから、主人と二人で「お参りできる教会があることがありがたいね」と話し、涙が出てきました。

その翌年の平成二十一年一月九日・十日と御本部初月例祭への参拝があることを知り、教会長先生（名城教会長 河合利男先生）の車に同乗させていただき参拝させていただきました。加治木教会の親先生が願っておられましたように、御本部への御礼参拝ができませんでした。

御本部でのお届は、今まで教会長

先生がされるのを後ろから共に参拝させていただくという形でしたが、初めて金光様に主人と二人でお取次を頂くこととなりました。

金光様から「ようお参りでした」とのお言葉を頂き、本当に感激しました。

その後、参拝者の皆さんと共に、奥津城参拝をさせていただき、金光様ご本宅への新年のご挨拶と一緒に行かせていただき、何もかもが今までとはちがった新鮮な御本部参拝でした。

その後は、せめて月に一回の月例祭の参拝を願いと、片道一時間半の教会参拝ができるようになりました。

しかし、最初の頃は問題が起きても、どうにもならなくなつてからお取次を頂くという悪いクセが抜けず、先生（河合利男先生）から「どうしてもっと早くお取次を頂いてくれなかったのか」と悲しまれました。

その後、何年かは、息子たちのことをはじめ私たちにも難儀なことが多く、お取次を頂いてお願いばかり

しておりました。

あるとき、先生が「こんどは何もないときにお参りができると良いね」と言われたことがありましたが、それは「お願いばかりに参るのではなく、お礼の参拝ができるの良いね」と教えて下さったと思いました。

それからは、参拝も月一回から、せめて二回の月例祭参拝と思い参拝させていただき、さらに、月を重ねる内に月三回の月例祭に参拝できるお繰り合わせを頂くことができるようになりました。

御本部初月例祭への参拝をさせていただくようにならせていただいて三年目のことですが、御本部のお広前の椅子席が空いてなく仕方なく畳の上に座ったのですが、その日から正座ができるようにならせていただきました。

その後、願いを立て直して「京都に住んでいます長男家族と、大府市（愛知県）に住む次男家族に信心を伝えたい、信心をして欲しい」とお取次お願いをさせていただきました。

話は前後しますが、我が家では、

佐屋教会が閉鎖になる前から、何十年と毎年六月に感謝祭(宅祭)を仕えさせていただいております。

佐屋教会が閉鎖されたその年は、私が親先生に代わって御祈念をさせていただきましたが、名城教会にお引き寄せいただいていたからは、名城教会の教会長先生にお伝えいただいております。

それに加えて、先生にご無理を申しまして、三ヶ月に一回の「愛西集会」をお願いしました。

先生は、快くお受け下さり現在も続けさせていただいております。

集会の願いとするとところは「教会から離れてしまった信徒総代の方が弥富(愛知県)に住んでおられるのですが、その方々にもう一度信心の芽が息吹ますように、また、未信奉者の方や隣近所の方々を誘って神様のありがたいお話を聞いていただきたい」との願いを立てさせていただいてのことです。

五年前の感謝祭や愛西集会までは、



名城教会
青木トミ子氏

今お話ししましたように、未信奉者や隣近所の方々を中心に進めてきたのですが、五年前の感謝祭をきっかけに、参加者の間で問題が起きてきました。

参加者の中に「あかもしてやった、こうもしてやったのに」と言われるようになり、金光教の悪口まで言われるようなことになり、近所付き合いもギクシャクしてきました。

(後半、次号につづく)

《御本部少年少女会連合本部主催》
第8回 少年少女遠征
金光教

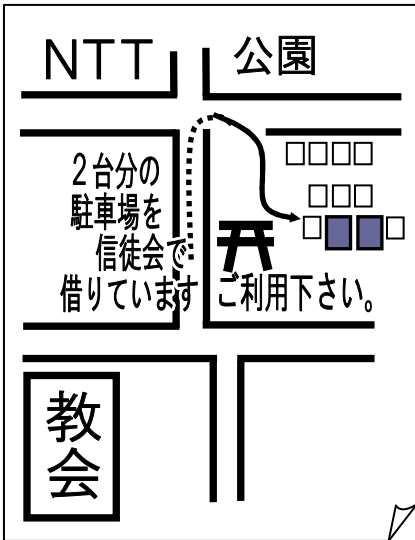
八月十八日(木)～二十四日(水)

※事前訓練：
三月二十五日(金)～二十八日(日)

「琵琶湖周遊・銀輪プロジェクト」
対象：新高一～二十一才
(信奉者)

経費
：三万五千元
※詳しくは、
教会まで。

※締切りは1月までですが、例年2月まで間に合います。



あしあと 加治木教会行事記録

1月

1 (祝) ●元日祭 正午

3 (日) 甘木親教会年頭参拝

9 (土) 斎掃御用 10時半

10 (日) ●生神楽月例祭 10時半
●大神楽

併せて成人感謝祭

11 (祝) 少年少女会「鏡開き」10時半

21 (土) 斎掃御用 10時半

22 (金) ●月例祭・共励会 13時半

30 (土) 斎掃御用 10時半

連合会定期総会(鹿児島) 10時

31 (日) 西鹿児島教会報徳祭 12時

成人感謝祭

仕えられる

一月十日(日)、月例祭に併せて成人感謝祭が仕えられました。

月例祭の祭詞奏上に引き続き、成人感謝祭の祭詞が奏上され、二十才の今日まで天地のお恵み・両親をはじめ多くに人たちのお祈りを頂いて成長させていただいてきた御礼とこれからお役に立つ社会人とならせていただく祈願の内容が奏上され、成人者は、ご神前に玉串を奉奠させていただきますました。

祭典・教話の後、このたび成人した青少年少女会のOGの二人、矢野裕子さんと、松田朋子さんに、記念品の贈呈がありました。

参拝してあった方々も、二人とも赤色を基調とした眩いほどの振袖で、晴れ着姿をながめ二人と一緒に写真に撮る方もありました。

この日は、始良市の成人式が加音ホールで開かれ、中学校の同窓生が集い旧交を温めあったそうです。



松田朋子さん(右)、矢野裕子さん(中)

「ご祭典・教話・記念品授与後、お餅を焼いてせんざいのお直会をみんなでお楽しみました。」



「信徒会の「鏡開き」となりました。」

ご霊神様のおまじり

二月 (敬称等略)

- 桐野ケサノ之霊神(1日)昭和9年
- 桐野秋子之霊神(3日)昭和7年
- 中村照子之霊神(4日)平成15年
- 吉屋安光之霊神(8日)平成1年
- 川畑正徳之霊神(12日)昭和23年
- 矢野政美之霊神(12日)平成11年
- 小屋敷慶二之霊神(14日)平成4年
- 川畑助太郎之霊神(18日)昭和23年
- 最勝寺剛藏之霊神(18日)昭和47年
- 平島タキノ之霊神(18日)昭和52年
- 福山一間之霊神(20日)平成16年
- 川畑幸正之霊神(21日)昭和21年
- 野口ミヤノ之霊神(22日)昭和60年
- 永原初男之霊神(22日)平成22年
- 大山テル之霊神(22日)平成27年
- 平島房代之霊神(24日)昭和6年
- 中島武夫之霊神(24日)昭和50年
- 桐野ケイ之霊神(25日)昭和2年
- 前田京子之霊神(25日)平成14年
- 山下ヒサエ之霊神(28日)平成2年
- 宮内ミツル之霊神(28日)平成13年

「先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。」
教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

寒中一斉信行 のひとコマ

寒中一斉信行も終盤にさしかかった日の朝御祈念後の研修でのひとコマです…。

『心神』安武文雄教話集 第三集 (三十二ページ前後) を読ませていただいていると、次のようなくだりがありました。

………

(親神様や、親先生の願いや親心がわからずに、一生懸命に願うおかげをかなえていただきたいとの思いで信心を進めて、いつまでたっても願いの通りにならないようなときに…)

金光様が「これほど信心するのに、どうしてこういうことができるであろうかと思えば、信心はもうとまっておる」と仰せになっておる。考えてみると、これほど信心するのに、どうしてこういうことが出来るのであろうかと思えば、信心はもうとまっておる」と仰せになっておる。考えてみると、これほど信心するのに、どうしてこういうことが出来るのであろうかというような、そういう考えは、そういう思

いというものは、どう考えても、このお道の信心の中心には、あるべきものじゃない…」

『心神』安武文雄教話集 第三集より

………

とつうとつうとつう、

〔教会長の質問〕

●なぜ願ひ通りにならないと、このようなくれほど信心するの「く」という気持ちになると思いますか?

〔参拝者のこたえ①〕

●自分を肯定する思いばかりが強いと、そのような思いとなるでしょう。

〔参拝者のこたえ②〕

●願うおかげが頂けなくて、どうしてどうしてという気持ちばかりが強くなるというようになるのでは。

〔教会長の質問〕

●それでは、どのようになれば、そのような気持ちが改まっていくと思われませんか。

〔参拝者のこたえ①〕

●悪いことが続いて起こってきたり、修行と修行の間でできるやうな心をつくっていく心にはならず、すむのではな

いでしようか。

〔参拝者のこたえ②〕

●今までのことを振り返って、御礼を申す心になることができれば、へどつうとつうという心は起こってこないと思います。

〔教会長の話〕

●矢野クワ様は三十三才の腎臓病で死を覚悟されたとき、初代安武松太郎師から「これまでのわが身わが家のためを思い願う一心とは違つ、それよりもっと進んだ一心がある、それは親神様のご恩に心の眼を開き、そのご恩を知り、ご恩に報いる一心である」という意味のご理解をされ、その一心の信心を教えられました。



ピオラ

そうして改まり九死一生のおかけを蒙ることができ、それまでの「自分中心の信心」から「親神様中心の信心」にすっかりかわってしまつたと伝えられています。

「自分中心の信心」では「願うおかげ」ばかりを信心の目標にしてしまいます。そのために「願うおかげ」通りにならなければ、神様が信じられず、信心に迷いやすくなります。

「親神様中心の信心」であれば「親神様」「ご神慮」を問題にしていきま

す。そのため「願うおかげ」をひかえられ、または後回しにされて、将来・末々の幸せのために、氏子が一時は大変な思いをしても、親神様は辛い悲しい思いをこらえられて、信心の改修工事のような難工事、いわば修行・試練のようなことを与えてくださり、将来のために頑丈な立派な信心の体制に作り直して下さるわけで、それは一時は苦しくとも、将来または末々のために思う親の眞の愛情・慈悲・慈愛にほかならないということがわかるのです。

そのような心境であれば、辛くとも苦しくとも親神様のみ心持ちがわかり、御礼を申すこともできていき

ます。

安武松太郎師が、信心は「おかげを信ずるのではありません、親神様を信ずるのです」とみ教え下さってあるのはこの辺りのことと思います。

おかげを信じていると、親神様が先々のために愛情でおかげを控えられてあっても、やがて迷いが生じてしまうわけです。

親神様（ご神慮：親神様の先々のためのみ思い）を信じておれば、信ずることができれば、どんなに辛い苦しいことに遭遇しても、信心の方向性を見失わないですむわけです。

信心を進める元気を失わずにすむため、迷いは生じないのです。

「自分中心の信心」から「親神様中心の信心」にすっかりかわってしまつと、信心が強くなり、深くなり、迷いがなくなることは確実です。

そのような信心の体制（態勢）で

一心を神様に向けるのですから、おかげを願う一心よりもどれほど強靱な一心になるか言うまでもありません。

矢野クラ様が安武松太郎師から教え賜った「親神様中心の信心」「親神様の御立場に立った信心」「親神様・ご神慮を信じる信心」とは、このように「自分中心・自己中心の信心」「願うおかげを信じる信心」と大きな違いがあるのです。

（朝御祈念後の研修がおわる）

「もっと詳しくこの内容をわかりたい方は『安武松太郎師教話集』第十集をお読みください…甘木教会発行」



山茶花

二月十七日(水)

甘木親教会 報徳祭

に併せて

初代教会長

安武松太郎大人六十五年祭

参拝

出発・六時半
帰着・十八時半頃

二月七日(日)

午前十一時より

加治木教会

(前日御用奉仕)

報徳祭 奉仕

併せて 矢野政美大人例年祭

多良木教会長
梅木博光先生

※「祭典・教話、後直会。

報徳祭

二月十四日(日)

上荒田教会 報徳祭 午前十一時より

二月二十一日(日)

多良木教会 報徳祭 午前十二時より

三月十二日(土)・十三日(日)

午後二時より

午前十時より

※十二日は主に初心者

申込締切

典楽会

鹿兒島教会にて 三月一日
会費・昼食費など一五〇〇円

琴・龍笛・笙・箏・太鼓

教会行事

2月

- 1 (月) ●報徳月例祭 10時半
- 4 (木) 甘木親教会初代立日御祈念 10時
- 6 (土) 御用奉仕
- 7 (日) 加治木教会報徳祭 11時
- 9 (火) 斎掃御用 10時半
- 9、10 (少) 連合本部スタッフ会議 (矢野 梅子) →
- 10 (水) ●生神金光 大神様 月例祭 10時半
- 12 (金) 矢野政美大人立日 10時半
- 14 (日) 上荒田教会 報徳祭 11時
- 17 (水) 甘木親教会 報徳祭 11時
- 併せて 甘木親教会初代六十五年祭
- 18 (木) 甘木親教会「同釜会」
- 21 (日) 多良木教会 報徳祭 11時
- 齋掃御用 10時半
- 22 (月) ●月例祭・共励会 13時半
- 27 (日) 少年少女会★チヨコ作り
- 29 (月) 斎掃御用 10時半

《未定行事》青年会・若婦人会

3月

- 1 (火) ●報徳月例祭 10時半
 - 9 (水) 斎掃御用 10時
 - 10 (木) ●月例祭 10時半
 - 12 (土) 13 (日) 典楽講習会 鹿兒島教会
 - 13 (日) 矢野クラ刀自立日 御祈念 10時
 - 19 (土) 斎掃御用 10時
 - 20 (祝) ●春季霊祭 10時半
 - 22 (火) ●月例祭・共励会 13時半
 - 28 (月) 30 (水) 甘木親教会「教会子弟の集い」
 - 31 (木) 斎掃御用 10時
- 《未定行事》青年会・若婦人会・少年少女会

加治木教会 バンド練習会

練習日 随時連絡します。

今年も練習会に参加のおかげを頂き、みんなで5月の布教六十五年記念大祭のお直会の演奏や、8月の全国大会で、お役に立たせていただきまし

八月三日(水)～六(土) 出発二日

午前九時、午後三時解散

御本部年代別キャンプ

対象、中高生 ※スタッフで矢野裕子参加
詳しくは、教会まで。